

6月定例会の一般質問は、22日、23日の両日行われ、8名の議員が市政各般にわたり、一般質問を行いました。

# 市政を聞く 一般質問

一般質問の原稿は、各発言議員が作成しています。



垣本 正直  
議員

**問① 小学校統廃合の4校試案を進めるため、教育委員会はどのように対応していくのか。**

答 現在ハード・ソフトの両面から統合によるメリット・デメリット、財政計画等を整理し、望ましい教育環境の整備に向け統廃合の全体的なビジョンを今年中に取りまとめる。

**問② 公民館の職員体制や運営のあり方について。**

答 地域特性を生かし、地域力の向上に貢献することが求められており、地域住民が活動しやすい環境づくりができる人材の育成が必要である。当面の間は、現在の職員体制を

維持し、職員の資質向上に努めたい。

**問③ 有害鳥獣対策として嶺南地域連携で取り組んでいるシカ・イノシシ処理、加工施設の建設構想の現状について、この施設運営をJAや森林組合が事業主体となるよう関係自治体が連携して働きかけできないか。**

答 施設建設や運営主体の方向性が見えない中、事業主体が決まらず、平成20年度内の構想作成ができなかった。また、JAが事業主体となりえるか、嶺南連携事業推進協議会の中での検討課題として提案していきたい。



佐久間 博  
議員

**問① 食のまちづくりの外部評価報告書で示された課題への取り組みは。**

答 観光局創設により産業全般に経済波及効果と、市民の健康づくり先進地視察、研究して健康寿命を延ばしたい。

**問② 鳥取県倉吉の取り組みの感想は。**

答 10年間で63棟の建物の修理修景事業を実施している。

**問③ 旧小浜小跡地の発掘調査について。**

答 本年度は8月から9月末まで行い、来年度に文化庁へ国史跡「後瀬山城跡」として追

加申請する予定。

**問④ 旧小浜小学校の横道を拡幅し土色のアスファルトの道路整備をしてはどうか。**

答 地元住民の意見を聞き、検討する。

**問⑤ 琵琶湖若狭湾快速鉄道について西川高島市長、森下若狭町長との連携は。**

答 両首長さんが大変前向きで連携強化を図る。

**問⑥ 3行政と住民の会3団体合同の推進プロジェクトチームの設立の考えは。**

答 県域を越えた住民の取り組みはありがたい。住民組織と一体の組織設立を検討する。



池尾 正彦  
議員

**問① 小学校の統廃合について、学校統廃合が進まない理由は何か。早い段階で素案（たたき台）が必要では。**

答 市全体の学校統合にかかる長期ビジョン、あるいは東部4地区において想定される統合のかたち、メリット・デメリット等、住民が判断できる情報をこれまで十分提示できなかったことが大きな要因であると考えている。学校統合を進める上で必要な項目について、現在ソフト・ハードの両面から、教育委員会内部で調査・研究を行っている。

**問② 特定失踪者問題について、拉致濃厚な特定失踪者の政府認定を図るための活動を今後どのように進めるのか。**

答 秋には、大規模な集会ができないか、関係機関と調整をしていく。

**問③ 獣害対策について、今後の対応策については、有害鳥獣対策専門担当職員の設置を考えてはどうか。**

答 検討していきたい。行政と地域が一体となった対策が必要。



下中 雅之  
議員

**問① 本市に根付いた男女共同参画の理念をこの不況の中で後退させてはならないと思われるが、その取り組みについて伺う。**

答 本市の雇用情勢の動向を注視し、今後も男女がともに仕事や家庭、地域などで充実した生活を送れるよう、本市の男女共同参画プランに基づくさまざまな事業に積極的に取り組んでいく。

**問② 女性の健康のため予防接種や治療歴、出産、健康診断の記録が一目でわかるようなものを発行し、個人の健康や治療対策ができる**

ような仕組みはできないか。

答 国の経済危機対策によって、今年度、本市も実施する女性特有のがん検診助成について、受診の呼びかけと併せて検診手帳を発行することとなっており、がん検診についてはこれにより必要な個人の記録ができる。

**問③ 小児細菌性髄膜炎の感染予防となるヒブワクチン接種の助成に対する市の考えを伺う。**

答 助成を行っている自治体の状況、内容等を調査するほか、他市町村の動向も参考にしながら検討していきたい。



能登 恵子  
議員

問① ハートフルパーキングを求める。

車いす専用のパーキングは普及しましたが、一見してお元気そうな内部障害者等が気兼ねなく利用できるよう、県が利用証を発行。歩行困難高齢者や妊産婦、けが人も対象となるのがハートフルパーキング。要望が一番多い市庁舎、病院等早急に設置を求める。

答 市施設への設置と小浜病院へも要請する。

問② 誰にでも使いやすいユニバーサルデザインのまちづくりをもっと進めてもらいたい。

答 マニフェストにあるので考えを取り入れる。

問③ 特定健診について。

昨年からはまったメタボ検診、平成24年に目標受診率65%等達成しないとバツとして国保が高くなり、達成すると褒美がある制度です。きめ細やかな指導・支援は小浜市民の健康寿命が延び、市民負担も減ります。そのため現場の人材を整える必要があります。

答 市民の健康づくり推進は極めて重要課題。特定健診やがん検診にも積極的に取り組むため、拠点施設や職員の充実を図り、来年度保健師の採用を予定している。



風呂 繁昭  
議員

問① 市長のマニフェスト、行財政改革をどう進めるのか。

答 施設の統廃合や民間委託等を推進。更なる改革に努め、財政基盤強化を図る。

問② 「健康」「観光」「まちなみ保存」今に始まった訳でなく継続した行政課題であり、それぞれに取り組んでいる中、なぜ推進チームが設置されたのか。

答 各課が連携、協力して横断的に効率的に取り組む。

問③ 西街道から市街地に入る時、JA前造成地、和久里四季菜館（道の駅）、つばき回廊、小浜小跡、小浜ロッジ（12月末閉鎖）について、それぞれ事情のある中、進捗が見えない、止まっている様に思えてならない。

答 小浜ロッジは閉鎖後解体。駐車場や休憩施設となるあずまやも含め利活用を検討する。つばき回廊は駐車場スペース、市民広場、観光拠点等小浜らしい整備が望ましい。JA前造成地は平成24年3月末日までに操業していただけるよう働きかける。四季菜館（道の駅）は今秋外構工事、来年複合型休憩施設工事予定。小浜小跡は今年発掘調査。来年、史跡認定を受けたい。

問④ 目玉となる観光地づくりは。

答 観光局構想、食のまちづくりの第2ステージと位置づけ準備委員会にて観光局詳細を固める。



宮崎 治宇蔵  
議員

問① 学校の統廃合問題について。

答 適正な学校規模については、いろいろな意見があることは承知しているが、平成16年の回答にある各学年、2から3学級の編成規模が望ましい。しかしながら、具体的に考えていくとどうなるか。事はそれほど単純でないと考えている。

問② 地域循環型の経済活性化について。

答 農林水産資源を生かした観光振興については、ブルーパーク阿納が好評を得ており、オープンした19年度の851人に比べ、20年度は1,796人と倍増。漁業と観光との連携が

新たな可能性を生む事例となっている。

問③ 日本電産シバウラとの契約内容について。

答 損害については、損害賠償請求の不請求の項目を確信的にいれたものであり、市として不利益にならない。

問④ 「核兵器の廃絶」を訴えたオバマ大統領のブラハでの演説について。

答 広島市長は、「オバマジョリティ」と題する核兵器廃絶に向けたキャンペーンを展開することを発表した。本市にも呼びかけがあれば積極的に協力してまいりたい。



松崎 圭一郎  
議員

問① 国や県に対する市の従属意識について。地方分権社会が遅々として進まないのは、国や県に抱く、市の従属意識の表れだと思う。例えば、県税である自動車税を市へ移管させる等、地方分権の主役は、住民が一番近い市がリーダーとなって考えていかなければならない。また、逼迫する財政下で市立図書館存続が取りざたされているが、地方分権形成の見地からも県立図書館との統合は、至極当然の施策と考えるが。

答 地方分権推進のために、三位一体改革が実

施されたが、本市のように財政状況の厳しい自治体にとっては、まだまだ国や県の補助金や交付金に頼らざるを得ない。

問② 教育現場における拉致問題への取り組みについて。公民教科に拉致問題が取り上げられているが、拉致被害の当事市として、いかに考えられているか。また、政府政策のアニメDVD「めぐみ」も啓発教材として積極的に見せるべきであると考えているが。

答 特に拉致問題に限定しての啓発はないが、人権教育の一環として授業を行っている。

